

武蔵村山市立小・中学校

# 学校図書館だより

— 本で育つ 本でつなぐ —

発行 武蔵村山市教育委員会

編集 武蔵村山市学校図書館活用推進プロジェクト学校図書館だより編集委員会



## 子供たちの

## 生きる力を育む

武蔵村山市教育委員会

教育長 持田 浩志



子供の読書

活動とは、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」であります。

「言葉はこころ、こころはまなざし」

これは、私が小学校の学級担任時代に、常に大切にしていたモットーです。言葉を学ぶだけではなく、心を耕すことができる読書は、本当に生きる力を身に付ける上で、大切であると考えております。

よい人生だと思えるのは物質ではありません。家族や地域の絆が大事であるといった日本の心が大切なのです。テレビやインターネットの普及による読書習慣の未形成が叫ばれる今こそ、親子で読書を楽しむ意味があるのではないのでしょうか。

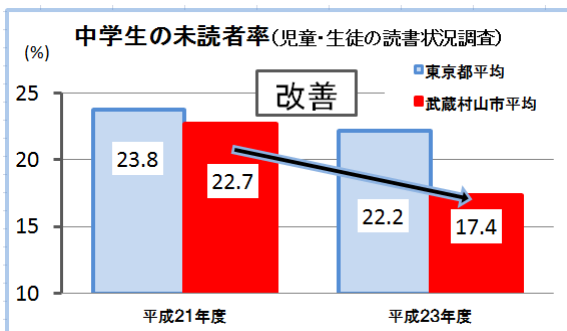
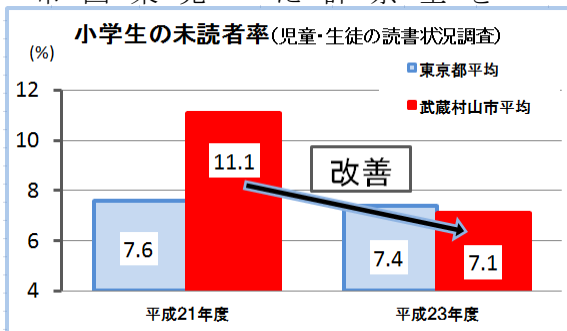
## 子供たちの学力と読書習慣の確立

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、児童・生徒自身の読書への意欲や読書にかける時間と、国語の正答率に関係があることが明らかになっています。このように、読書は子供が自分の将来に夢をもち、自己実現を図っている上で重要な役割を果たしています。

さて、右のグラフは、平成21年度及び平成23年度に東京都教育委員会が実施した「児童・生徒の読書状況調査」結果における「未読者率」を比較したものです。

「未読者率」とは、1か月間に1冊も本を読まなかった児童・生徒の割合（第二次東京都子供読書活動推進計画より抜粋）を示したものです。

小学生のグラフを見ると、平成21年度、東京都平均を大幅に上回っていた、武蔵村山市



の「未読者率」は、平成23年度には東京都平均を下回るまで大幅に改善されていることが分かります。また、中学生のグラフを見ると、平成21年度、平成23年度、ともに東京都平均を下回っているだけでなく、平成23年度は大幅に下回っているという良い結果が得られました。

武蔵村山市教育委員会では、平成24年度から学校司書の配置を週4日に増やしました。今後とも、各校における読書活動の充実を図り、武蔵村山市の子供たちの学力向上と読書習慣の確立につなげてまいりたいと考えております。

## 言語活動充実に向けた

### 読書指導の必要性

第三中学校 学校司書

小久保弘美

第三中学校では、生徒の読書意欲を高めるため、「読書マラソン30冊完読賞」と、年度末の「多読賞（学年ごと3名）」の取組を行い、全校朝礼で表彰しています。



「読書マラソン30冊完読賞」とは、朝読書の時間や家読（うちどく）で読んだ本に

ついて、「読書マラソン用紙」に書名・著者名を記入します。そのほかに、昨年度までは、一言感想文を記入させました。今年からは、本の推薦文を記入するようにしました。一・二行という短い文章の中で、自分の言葉で表現し、紹介します。読書力だけではなく、表現する力も育

てて欲しいと思っています。「多読賞」は、学校図書館で貸出した冊数で決定しています。

### 《学校図書館の環境づくり》

学校の図書館でも、生徒を支援するために、生徒の希望する本や、様々なジャンルの本を揃えるよう心がけています。また、先生方から本の寄贈を受けたり、生徒がお薦めの本を寄付してくれたりしたおかげで、蔵書数も少しずつ増えてきました。

また、調べ学習などに利用できるよう、新しい本を書架に並べ、生徒が利用しやすいように図書館を整備しています。

生徒が学校図書館に来館してくれるよう、図書委員と一緒に、毎月、図書館の開館日時や図書委員の一言を添えて「ライブラリーニュース」を発行しています。

本たよりで、以前本の表紙を見せるようにして書架に置いていることを紹介しました。現在は、更に、図書委員の生徒が作成したお薦め紹介文を廊下に掲示したり、図書館内に飾ったりしています。

また、本好きの生徒や図書委員が

本を探している友達に、お薦めの本を紹介したりする姿が、お昼休みに見られるようになってきました。図書館の入り口付近には、新刊が展示してあります。

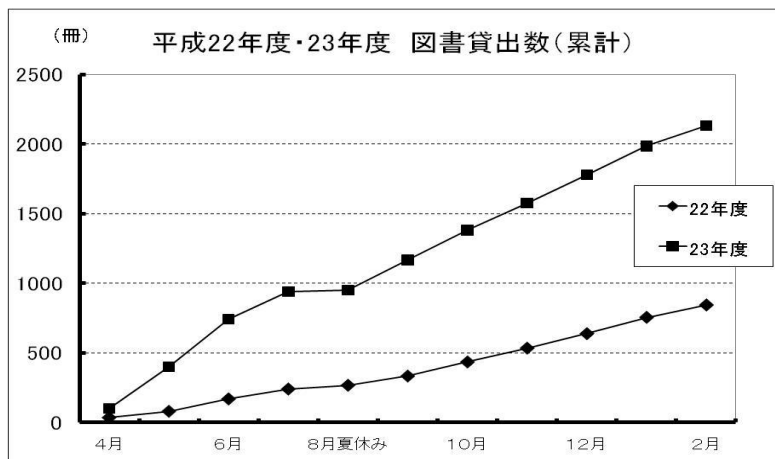


写真は、文学の部屋です。隣には、調べ学習用の書架と机が並んでいる部屋があります。

### 《平成23年度の貸出》

平成23年度には、学校司書として週3日の勤務以外にボランティアとして、関わる事ができました。長期休業日以外、ほとんどの日の昼休みは、学校図書館を開館しました。

また、蔵書の充実が図られた結果、年間図書貸出数は22年度の2・5倍の2131冊となりました。



平成24年度の課題は、本を良く読んでいる生徒が多くなってきている一方で、全く本を読んでいない生徒もいるので、中学校生活の3年間で1冊でも心に響き、共感できる本と出会えるように、先生方や図書委員と協力をしていきたいと考えています。

## 読書を

### 学校行事として取り組む

第三小学校 学校司書

長谷川雅美

第三小学校の読書旬間は、春と秋の年2回あります。今年度、春の読書旬間は6月にあり、週3回の朝読書、図書委員会による1・2年生への読み聞かせ、保護者による全学年への読み聞かせ、親子読書の取組などを行いました。

昨年度秋には、全校集会で、図書委員会が『どろぼうがっこう』（作画：かこさとし）を劇のように発表したり、休み時間に図書室に来た児童がおすすめ本の紹介カードを書いて、しおりをもらったりしました。

読書旬間中の朝読書では、本に集中するまでの時間が早くなり、一心に読書をする姿がどの学年でも見られました。読書は習慣の側面が大き

いので、学校全体

でその機会を設け、本に親しめるようにすることは、生活の中の潤いにもなっていると感じます。

## 主体的な取組をうながす

### 読書月間

第七小学校 学校司書

稲葉 智子

第七小学校は、6月と11月が読書月間です。

期間中には、「読書記録カード」を配布します。1・2年生は、読んだ本の冊数を色ぬりします。3年生以上は、ページ数を記入していきます。

児童は、読書カードを手に持ち、図書室に来るなり、「先生、50ページまで読んだよ」と、嬉しそうな表情で、私に話し掛けてくれます。

また、しおりも配布します。図書委員の5・6年生の手づくりのしおりです。1回の貸出しごとに、1枚プレゼントをしています。また、11月には、図書委員による低学年への読み聞かせやテレビ放送でお薦めの

本の紹介もします。

読書月間中は、普段よりも図書館への来館者が増えています。

## 読書意欲を高める取組

### 『楽しいイベントの工夫』

第九小学校 学校司書

海野 幸子

第九小学校では、児童が図書室に来館する励みになるよう心掛けています。例えば、みんなが欲しくなり、児童が自分で作れるオマケを、図書カード更新の際にプレゼントすることをしています。反響が大きかったのは、いろいろな形に切り抜いた小さい色紙を、茶葉に薄い紙で包み、糸を付けた「しおりティーパック」や、色紙で作ったいろいろな形の作品でした。また、今年度は季節やイベントに合わせて窓部分に紋切り型の花を貼りました。また5月は、花紙をたたんだ菖蒲を作り、図書室に飾り付けをしました。

今年度は、すでに低学年は、3分の1の児童がカード2枚目に入り、3枚目の児童も見られています。すでに、一昨年の4倍の貸出し数です。読書の楽しみだけでなく、知識と好奇心を広げる機会として、児童が本に親しみ、心を豊かにすることができるよう、更に工夫をしていこうと考えています。

## 『パネルシアター』の魅力

雷塚小学校 学校司書

木村 知佐

雷塚小学校では、児童の読書に対する意欲を向上させ、本に親しむことができるよう、パネルシアターを行っています。

初めて、「にんじんさん・ごぼうさん・だいこんさん」のパネルシアターを見せた時は、「人形劇みたい。」「絵が動いているみたい。」と興味津々でした。話が始まり、仕掛けが出てくると、児童から「いろいろな工夫や仕組みがある。」「いろいろな所から人形が出てくる。」と驚きの声が上がりました。

このような取組を進めることで、来館者数や貸し出し冊数が、5月に昨年度の2倍になりました。これからも、「図書室に行きたい、読書がしたい。」と言ってもらえるよう努め、読書への意欲を育てていきます。





# すばらしい読書活動の

## ひろがり

第八小学校 学校司書

杉山 薫

第八小学校では、春と秋に2週間の読書旬間を設定し、全校で取り組んでおり、読書活動が学校全体に定着しつつあります。読書旬間初日は、図書委員会による絵本の読み聞かせや、各学年におすすめ本を紹介するテレビ放送を実施しています。今年度は、校長先生による絵本の読み聞かせもあり、大好評でした。また、旬間中、月曜日と木曜日は『昼休み読書』を位置付け、全員着席で静かに15分間読書をします。

お薦めの本紹介ポスター『ブックコマニシャル』を全校で作成し、掲示しています。1年生から6年生まで全員のポスターが廊下に貼ってあり、本への興味を深めています。年間を通しての活動としては、「せんせいのおすすめ」の



本」と「図書委員のおすすめ本」の紹介があります。

図書室の本から紹介する本を選び、毎月ポスターを作り、「おすすめコメント」とともに図書室に展示します。とても人気が高く、1か月の展示期間後は、その本がすぐに貸し出されてしまいます。

本校では、夏休みの水泳指導日に合わせて学校図書館を開館します。プール指導日の15日間、9時から12時まで、館内読書はもちろん、図書の貸出しや返却も行います。そのため、プールの前後、読書だけではなく、宿題に取り組む児童もいて、多い日には数十人の児童が来館しています。

このような活動により、本校の図書貸出し冊数が増加しました。平成22年度は1人当たり20冊でしたが、平成23年度には30冊になりました。今後は、1人当たりの平均値ではなく、全員が30冊の読書を目指します。

「本がたくさん読める！」

待望の図書館交換便走る

各学校では、市内各図書館と連携して、学校図書館にはない図書について、一時的な団体貸出を受け付けることにより、児童生徒に多くの本を読んでもらいたいと考えてきました。

これまでも学校司書の活躍で、必要に応じて市立図書館から図書を借りたり返却したりしていました。

今年度から、図書館交換便の運用システムが整備されました。その目的は、「市内の小・中学校へ市立図書館の資料を貸出しすることにより、学校における国語及び調べ学習等の授業で、児童及び生徒の読書活動並びに学習の



促進に寄与すること」にあります。学校や地域の読書活動の活性化に



つながると考えています。また、この交流を通して、「親子読書」が推進されるよう、期待

しています。このような大きな役割を担った図書館交換便の搬送方法は、「学校からの申込↓図書館での集荷↓予定表の運送日に委託者が搬送↓学校での受取り↓学校での返却資料集荷・確認↓予定表の搬送日に委託者が回収↓図書館へ返却」の流れになっています。

図書交換便の実施は、学校図書館を中心とする読書活動の原動力となるでしょう。

(編集委員)

### 【編集委員】

- 第三小学校 長谷川雅美
- 第七小学校 稲葉 智子
- 雷塚小学校 木村 知佐
- 第一中学校 栗原千代子
- 第三中学校 小久保弘美

